

佳作

理解する努力

新潟県立村上中等教育学校

3年 鈴木 惺那

皆さんは普段どのようなことを心がけて生活していますか。言葉や言動に注意する、時間を守る、自分で考えるなど人それぞれだと思います。私が心がけていることは「理解する努力」をすることです。そう思うのは、私自身が理解してもらえてうれしいと感じた経験があったからです。

私は3歳のとき、おたふく風邪になりムンプス難聴という片耳の聴力が失われる病気になりました。有効な治療法がないため今も左耳の聴力がありません。右耳は聴こえるので生活していく上で問題はありますが、人と会話する時に支障をきたすことがあります。一番多いのは名前を呼ばれていることに気がつけないことです。声を拾うのが難しいのでその人のことを無視したと勘違いをされることがあります。しかし事情を話せばみんな納得してくれて誤解を解くことができます。このように、私は理解してもらえることは心強くうれしいことなんだと気がつくことができました。

「目に見えない障害」は理解するのが難しいといわれています。一目見ただけでは障害があるかわからないからです。「目に見えない障害」には、注意欠陥・多動性障害や徐脈性不整脈などがあります。私の祖父は徐脈性不整脈でペースメーカーを入れています。だから、電磁波が強いものは避けなくてははいけません。祖父が胸ポケットに携帯を入れようとすると家族が注意し「気をつけてね」と言います。すると祖父はとてもうれしそうな顔をします。祖父にとっては理解してもらえること、心配されるのがうれしいことだとわかり私も祖父のためできることをしています。

また「目に見えない障害」が「目に見える」ような取り組みが行われています。例にヘルプマークなどが挙げられます。鞆などに着けることができ、表面には疾患名や配慮してもらいたいことなどをシールに記入して貼りつけることができます。障害が外見からわからなくても周囲の人に知らせて援助を得やすくなるように工夫されています。そうやって社会全体で理解しやすい環境ができあがりつつあります。

しかし、世の中には理解することが難しいもので溢れかえっています。人の考えや他国の考えはそう簡単に変えられるものではありません。だから戦争や紛争がいまだに起きているのです。そのようなことが起こるのは文化の壁があるからだと思います。国ごとに思想も違えば言語も違います。そうした文化の

壁から不幸が広がっていくと私は思います。だから皆さんにもその文化を「理解する努力」をしてみてください。あなたのその努力が誰かの支えになったり誰かの心を動かしたりするかもしれません。完全に理解ができなくても、私は人の意見をしっかり受け止め考えることを怠らないようにしたいと思います。よりよい世の中にするために「理解する努力」が大切だと多くの人に伝えることを願っています。